

**企画展示****『『拡大 EU』 10 周年—いまなお広がる『ヨーロッパ』』****2014 年 5 月 8 日（木）～31 日（土）**

2014 年は、欧州連合(EU)にとって史上最大となる 10 カ国の新規加盟国を迎え入れた第 5 次 EU 拡大から、ちょうど 10 周年にあたります。この 2004 年の EU 拡大は、さまざまな点でそれまでの拡大とは様相を異にするものでした。

その最大の特質は、新規加盟国の多くが東西冷戦下で社会主義陣営に属していた中東欧諸国であったこと——25 カ国体制となった EU では、経済格差や文化的なギャップがかつてないほど大きく広がりました。その異質性を乗り越えて、さらなる統合につなげようとする「一つの欧州」への大きな期待感がそこにありました。「多様性の中の統合 (United in diversity)」という、今日の EU を象徴するスローガンが公式文書に登場するようになったのもこの頃です<sup>1</sup>。

拡大を遂げた EU では、市場の拡大と大規模な労働力移動によって経済成長が促進される一方、加盟国間の対立やユーロ・スkeptiズム（欧州懐疑主義）の高まりに直面します。2010 年代に入ると欧州発の巨大な金融危機が発生し、ユーロ経済圏は大きく動揺。そして、いままさに拡大 EU の境界線と密接なかかわりをもつウクライナ問題が深刻化の度合いを深めています。

「東方拡大」とも呼ばれる、第 5 次 EU 拡大は、「『ヨーロッパとは何か』『ヨーロッパはどこまでか』をめぐってのひとつの『答え』である」<sup>2</sup>とも言われています。2013 年 7 月にクロアチアが加盟し、28 カ国となった EU はさらなる拡大へと向かうのか。「ヨーロッパ」はどこまで広がるのか。EU 拡大の意味が改めて問い直されている現在、資料からその軌跡を辿ります。

<sup>1</sup> 国立国会図書館調査及び立法考査局『拡大 EU：機構・政策・課題：総合調査報告書』（国立国会図書館）2007 年、3 頁。

<sup>2</sup> 羽場久滉子『拡大ヨーロッパの挑戦』中公新書（中央公論新社）2004 年、5 頁。

〈 展 示 概 要 〉

テーマ A 和書でひもとく「拡大 EU」研究の現在

テーマ B 拡大 EU とはなにか

テーマ C 最新資料から拡大 EU を見る

テーマ D 第 5 次 EU 拡大の道のり

テーマ E 拡大 EU をとりまく政策課題

テーマ F 世界が見つめる拡大 EU

特設コーナー 国連における EU

\* テーマ A は国際機関資料室前の展示コーナーにおいて、テーマ B 以降は国際機関資料室内で展示しています。